(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-193269
(P2017-193269A)
(43)公開日　平成29年10月26日(2017.10.26)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B60R 13/02	(2006.01)	B60R	13/02	Z	3D023
B60H 1/34	(2006.01)	B60H	1/34	611A	3D344
B60K 37/00	(2006.01)	B60K	37/00	Z	3L211

審査請求 有　請求項の数 3　ＯＬ　（全 8 頁）

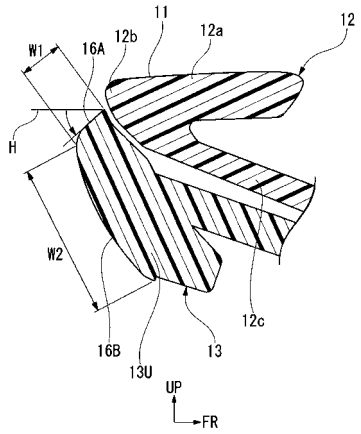
(21)出願番号　特願2016-85103(P2016-85103)
(22)出願日　平成28年4月21日(2016.4.21)

(71)出願人　000005326
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山二丁目１番１号
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100146835
弁理士　佐伯　義文
(74)代理人　100175802
弁理士　寺本　光生
(74)代理人　100094400
弁理士　鈴木　三義
(74)代理人　100126664
弁理士　鈴木　慎吾

最終頁に続く

(54)【発明の名称】車両の空調吹出部構造

(57)【要約】
【課題】加飾部材の下辺領域での反射光のサイドウインドウのサイドミラーエリアへの映り込み量を抑制して、搭乗者の快適性を高めることができる車両の空調吹出部構造を提供する。
【解決手段】空調吹出部は、車室内の前席前方の設置壁部材に取り付けられ、車室内に開口する空調空気の吹出口１１を有する空調吹出部材と、空調吹出部材の吹出口１１の外縁部に取り付けられる光輝性の加飾部材１３と、を備えている。吹出口１１の下側縁部に配置される加飾部材１３の下辺領域１３Ｕは、上方側に指向する第１面１６Ａと、第１面１６Ａの下方に隣接して配置され上方側に指向しない第２面１６Ｂと、を有する。第１面１６Ａの車幅方向と略直交する方向の延出幅Ｗ１は、第２面１６Ｂの車幅方向と略直交する方向の延出幅Ｗ２よりも狭く形成されている。
【選択図】図３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
車室内の前席前方の設置壁部材に取り付けられ、車室内に開口する空調空気の吹出口を有する空調吹出部材と、
前記空調吹出部材の前記吹出口の外縁部に取り付けられる光輝性の加飾部材と、を備え、
前記吹出口の下側縁部に配置される前記加飾部材の下辺領域は、上方側に指向する第１面と、該第１面の下方に隣接して配置され上方側に指向しない第２面と、を有し、
車幅方向と略直交する方向の断面における前記第１面の延出幅は、車幅方向と略直交する方向の断面における前記第２面の延出幅よりも狭く形成されていることを特徴とする車両の空調吹出部構造。
【請求項２】
前記第１面は、水平面に対して車両後部側が下方に傾斜する傾斜面によって構成されていることを特徴とする請求項１に記載の車両の空調吹出部構造。
【請求項３】
前記空調吹出部材の前記吹出口の下縁部には、車両前部上方から前記加飾部材の前記下辺領域に入射する光の光路上に迫り出す庇部が突設されていることを特徴とする請求項１または２に記載の車両の空調吹出部構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、車両の空調吹出部構造に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
車両の前席前方のインストルメントパネル等には、空気調和装置の空調吹出部が設置されている。空調吹出部は、車室内に臨む前面に空調空気の吹出口を有する箱状の空調吹出部材と、空調吹出部材の吹出口の周縁部に取り付けられる枠状の加飾部材（ベゼル）と、を備えている（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１１－１０５０３５号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
特許文献１に記載のような空調吹出部において、空調吹出部材に取り付けられる加飾部材にメッキ等の光輝性の高い加飾が施されている場合、加飾部材の表面、特に、吹出口の下側縁部に配置される加飾部材の下辺領域の上面部分では、車両前部上方から入射した外光が反射して、その光がサイドウインドウのサイドミラーエリアに映り込んで搭乗者の視界に入り、搭乗者の快適性を損なうことがある。
【０００５】
そこで本発明は、加飾部材の下辺領域での反射光のサイドウインドウのサイドミラーエリアへの映り込み量を抑制して、搭乗者の快適性を高めることができる車両の空調吹出部構造を提供しようとするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明に係る車両の空調吹出部構造は、上記課題を解決するために、以下の構成を採用した。
即ち、本発明に係る車両の空調吹出部構造は、車室内の前席前方の設置壁部材（例えば、実施形態のインストルメントパネル２）に取り付けられ、車室内に開口する空調空気の

吹出口（例えば、実施形態の吹出口１１）を有する空調吹出部材（例えば、実施形態のレジスターケース１２）と、前記空調吹出部材の前記吹出口の外縁部に取り付けられる光輝性の加飾部材（例えば、実施形態の加飾部材１３）と、を備え、前記吹出口の下側縁部に配置される前記加飾部材の下辺領域（例えば、実施形態の下辺領域１３Ｕ）は、上方側に指向する第１面（例えば、実施形態の第１面１６Ａ）と、該第１面の下方に隣接して配置され上方側に指向しない第２面（例えば、実施形態の第２面１６Ｂ）と、を有し、車幅方向と略直交する方向の断面における前記第１面の延出幅（例えば、実施形態の延出幅Ｗ１）は、車幅方向と略直交する方向の断面における前記第２面の延出幅（例えば、実施形態の延出幅Ｗ２）よりも狭く形成されていることを特徴とする。

【０００７】

上記の構成により、車両の前部上方から外光が加飾部材の下辺領域に入射されると、その光は上方側に指向する第１面に当たって反射する。加飾部材の下辺領域の第１面の延出幅は、上方側に指向しない第２面の延出幅よりも狭く形成されているため、加飾部材の下辺領域での反射光がサイドウインドウのサイドミラーエリアに映り込むことがあっても、その映り込み量は少なくなる。このため、加飾部材の下辺領域での反射光がサイドウインドウのサイドミラーエリアに映り込むことがあっても、搭乗者が眩しさを感じることがなくなる。

【０００８】

前記第１面は、水平面（例えば、実施形態の水平面Ｈ）に対して車両後部側が下方に傾斜する傾斜面によって構成されるようにしても良い。

この場合、車両前部上方から加飾部材の第１面に入射した外光がサイドミラーよりも後方側に反射し易くなり、サイドウインドウのサイドミラーエリアに映り込みにくくなる。

【０００９】

前記空調吹出部材の前記吹出口の下縁部には、車両前部上方から前記加飾部材の前記下辺領域に入射する光の光路上に迫り出す庇部（例えば、実施形態の膨出部１２ｂ）が突設されるようにしても良い。

この場合、車両前部上方から加飾部材の下辺領域に入射する光が空調吹出部材の庇部によって遮られ、その光が加飾部材の下辺領域で反射しにくくなる。このため、車両前部上方から入射した光がサイドウインドウのサイドミラーエリアに映り込みにくくなる。

【発明の効果】

【００１０】

本発明によれば、加飾部材の下辺領域の、上方側に指向する第１面の延出幅が上方側を指向しない第２面の延出幅よりも狭く形成されているため、加飾部材の下辺領域での反射光のサイドミラーへの映り込み量を低減することができる。したがって、本発明を採用した場合には、加飾部材の下辺領域に入射した外光のサイドウインドウのサイドミラーエリアへの映り込み量を抑制して、搭乗者の快適性を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１１】

【図１】本発明の一実施形態の車両の車室内を示す斜視図である。

【図２】本発明の一実施形態の空調吹出部を示す正面図である。

【図３】本発明の一実施形態の空調吹出部の図２のＩＩ－ＩＩ線に沿う断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１２】

以下、本発明の一実施形態を図面に基づいて説明する。なお、以下の説明における前後左右等の向きは、特に記載が無ければ車両における向きと同一とする。また以下の説明に用いる図中適所には、車両前方を示す矢印ＦＲ、車両左方を示す矢印ＬＨ、車両上方を示す矢印ＵＰが記されている。

【００１３】

図１は、車室内の左側前席の前方部を右後部上方側から見た図である。本実施形態に係る車両は、運転席が左側にある左ハンドル車であり、ステアリングホイール１が車室内前

方の左側に設置されている。図１において、符号２は、車室内の前席前方に設置され、各種の計器類や空気調和装置の空調吹出部１０Ａ，１０Ｂ等が配置されるインストルメントパネル（設置壁部材）である。また、符号４は、前側のサイドドア５に設置されたサイドミラーであり、６は、インストルメントパネル２の前部上方に設置されたウインドシールドガラスである。サイドドア５には、サイドウインドウ７が昇降自在に取り付けられている。

【００１４】

空調吹出部１０Ａは、図示しない前席シートの前方の車幅方向外側領域に配置されており、空調吹出部１０Ｂは、図示しない前席シートの前方の車幅方向内側領域に配置されている。

図２は、車幅方向外側領域に配置される空調吹出部１０Ａを示す図であり、図３は、図２のＩＩ－ＩＩ線に沿う断面図である。空調吹出部１０Ａ，１０Ｂは、サイズや形状が若干異なるものの基本的な構造はほぼ同様とされている。以下では、図２，図３に示す車幅方向外側領域の空調吹出部１０Ａを代表として空調吹出部の詳細な構造を説明する。

【００１５】

空調吹出部１０Ａは、前席に対峙するインストルメントパネル２の縦壁に取り付けられ、車室内に開口する空調空気の吹出口１１を有する箱状のレジスターケース１２（空調吹出部材）と、レジスターケース１２の吹出口１１の外縁部を覆うようにレジスターケース１２に取り付けられた加飾部材１３と、を備えている。レジスターケース１２は、樹脂材料によって形成され、表面に艶のある黒色塗装が施されている。加飾部材１３は、樹脂材料によって形成され、表面に金属調の（光輝性の）メッキ処理が施されている。

【００１６】

レジスターケース１２の吹出口１１は、正面視が略方形状に形成されている。レジスターケース１２の吹出口１１内には、風向切換用の複数のフィン１４が配置され、吹出口１１の側縁部には、レジスターケース１２内の図示しない風量調整ダンパーを操作するための風量調整ダイヤル１５が設置されている。

【００１７】

加飾部材１３は、吹出口１１の上縁部と下縁部と車幅方向外側の側縁部を取り囲むように、正面視が略コ字状に形成されている。加飾部材１３は、インストルメントパネル２の前面に対して車室内側に突出し、その状態において吹出口１１の外縁部を取り囲んでいる。

【００１８】

吹出口１１の下縁部に配置される加飾部材１３の下辺領域１３Ｕは、図３に示すように、上方側に指向する第１面１６Ａと、第１面１６Ａの下方に隣接して配置され上方側に指向しない第２面１６Ｂと、を有している。詳細には、第１面１６Ａは、水平面Ｈに対して車両後部側が下方に傾斜する傾斜面によって構成されている。第１面１６Ａの車両後部側の端部は下方に向かって緩やかに湾曲し、その湾曲部分に、第２面１６Ｂの車両後部側の端部が接続されている。第２面１６Ｂは、水平面Ｈに対して車両後部側が上方に傾斜する傾斜面によって構成されている。

図３に示すように、車幅方向と略直交する方向の断面における第１面１６Ａの延出幅Ｗ１は、車幅方向と略直交する方向の断面における第２面１６Ｂの延出幅Ｗ２よりも狭く形成されている。

【００１９】

レジスターケース１２の吹出口１１の下側の開口縁１２ａは、車両後部側の端部において、外面が下方に湾曲する膨出部１２ｂを介してレジスターケース１２の外壁１２ｃに連設されている。レジスターケース１２の外壁１２ｃは、車両後部側に向かって上方に傾斜しており、膨出部１２ｂは、吹出口１１の開口縁１２ａと外壁１２ｃの外面とを湾曲面によって連続させている。

【００２０】

レジスターケース１２の下側の外壁１２ｃには、加飾部材１３の下辺領域１３Ｕが外側

から被着されるようになっている。加飾部材１３の下辺領域１３Ｕがレジスターケース１２の外壁１２ｃに被着された状態においては、レジスターケース１２の膨出部１２ｂは、その一部が加飾部材１３の下辺領域１３Ｕの上端部から車両の上方側に突出するようになっている。より具体的には、レジスターケース１２の膨出部１２ｂの一部は、加飾部材１３の第１面１６Ａのうちの前部上端位置に近接する位置において、第１面１６Ａの前部上端位置よりも上方側に所定略突出している。膨出部１２ｂは、車両前部上方から加飾部材１３の下辺領域１３Ｕに入射する光の光路上に迫り出す庇部を構成している。

【００２１】

以上のように、本実施形態に係る空調吹出部１０Ａ，１０Ｂでは、加飾部材１３の下辺領域１３Ｕの、上方側に指向する第１面１６Ａの延出幅Ｗ１が上方側を指向しない第２面１６Ｂの延出幅Ｗ２よりも狭く設定されている。車両の前部上方から外光が加飾部材１３の下辺領域１３Ｕに入射されると、その光は主に上方側に指向する第１面１６Ａに当たって反射し、上方側に指向しない第２面１６Ｂで反射しにくくなるが、本実施形態の空調吹出部１０Ａ，１０Ｂにおいては、第１面１６Ａの延出幅Ｗ１が第２面１６Ｂの延出幅Ｗ２よりも狭く設定されているため、加飾部材１３の下辺領域１３Ｕでの反射光がサイドウインドウ７のサイドミラー４の鏡面４ａエリアに映り込むことがあっても、その映り込み量は少なくなる。

したがって、本実施形態に係る空調吹出部１０Ａ，１０Ｂによれば、加飾部材１３の下辺領域１３Ｕに入射した外光のサイドウインドウ７のサイドミラー４の鏡面４ａエリアへの映り込み量を抑制して、搭乗者の視覚的快適性を高めることができる。

【００２２】

また、本実施形態に係る空調吹出部１０Ａ，１０Ｂでは、加飾部材１３の下辺領域１３Ｕの第１面１６Ａが、水平面Ｈに対し車両後部側が下方に傾斜する傾斜面によって構成される。このため、車両前部上方から加飾部材１３の第１面１６Ａに外光が入射した場合に、その外光がサイドミラー４よりも車体後方側に反射し易くなる。したがって、この構成を採用した場合には、加飾部材１３での反射光がサイドウインドウ７のサイドミラー４の鏡面４ａエリアに映り込むのを有効に低減することができる。

【００２３】

さらに、本実施形態に係る空調吹出部１０Ａ，１０Ｂにおいては、レジスターケース１２の吹出口１１の下縁部に膨出部１２ｂが設けられ、その膨出部１２ｂが、車両前部上方から加飾部材１３の下辺領域１３Ｕに入射する光の光路上に迫り出す庇部として機能するようになっている。このため、車両前部上方から加飾部材１３の下辺領域１３Ｕに入射した光がレジスターケース１２の膨出部１２ｂによって遮られ、その光が加飾部材１３の下辺領域１３Ｕで反射しにくくなる。したがって、この構成を採用した場合には、車両前部上方から入射した光がサイドウインドウ７のサイドミラー４の鏡面４ａエリアに映り込むのをより有効に低減することができる。

【００２４】

なお、本発明は上記の実施形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々の設計変更が可能である。例えば、上記の実施形態においては、空調吹出部１０Ａ，１０Ｂがインストルメントパネル２に設置されているが、空調吹出部は車室内の前席前方に配置される設置壁部材であれば、インストルメントパネル２以外の部材に設置されていても良い。

また、上記の実施形態においては、表面に金属調のメッキ処理が施されている加飾部材１３が用いられているが、加飾部材１３は必ずしもメッキ処理を施した部材である必要はなく、表面が光輝性を有するものでは金属部材、若しくは、塗装であっても良い。

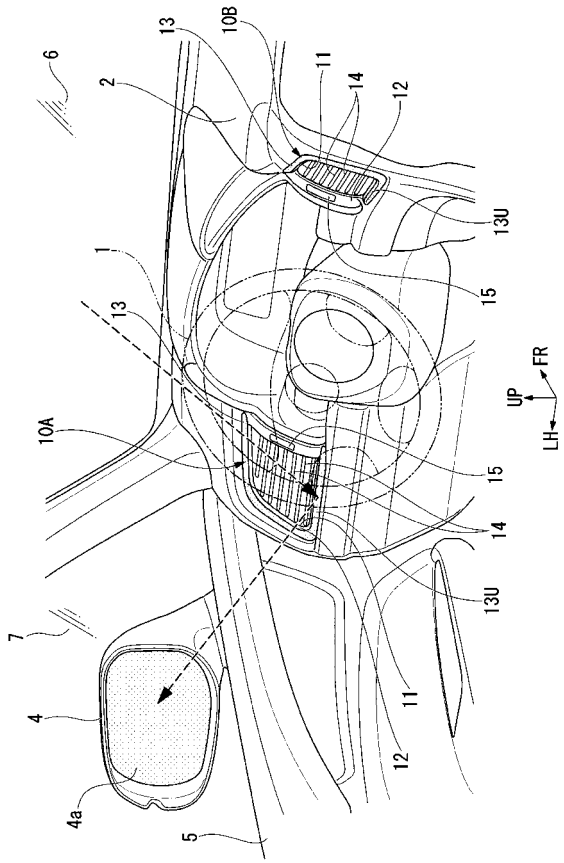
【符号の説明】

【００２５】

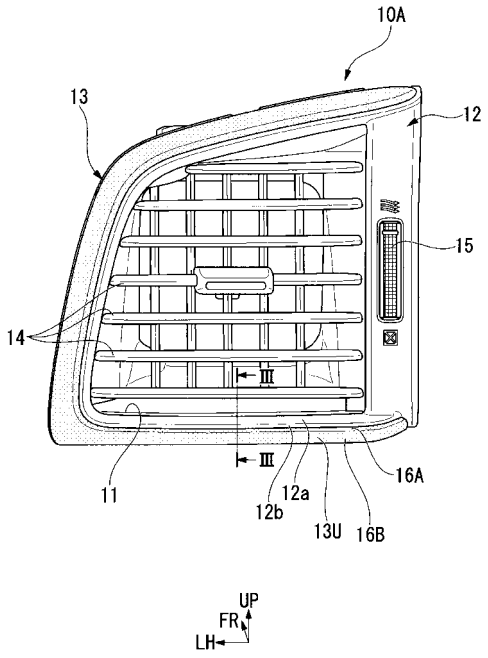
２…インストルメントパネル（設置壁部材）
１０Ａ，１０Ｂ…空調吹出部
１１…吹出口

１２…レジスターケース（空調吹出部材）
１２ｂ…膨出部（庇部）
１３…加飾部材
１３Ｕ…下辺領域
１６Ａ…第１面
１６Ｂ…第２面
Ｈ…水平面
Ｗ１…第１面の延出幅
Ｗ２…第２面の延出幅

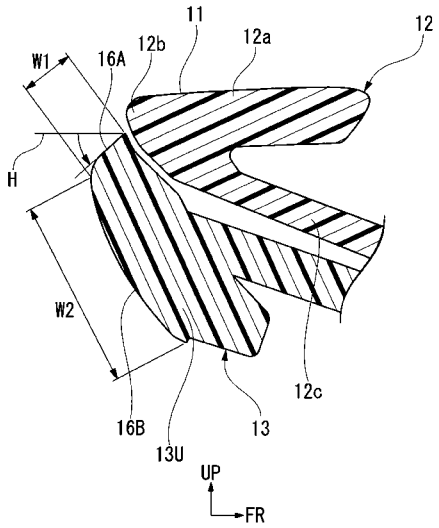
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

(72)発明者　三栗　将太
埼玉県和光市中央１丁目４番１号　株式会社本田技術研究所内

Ｆターム(参考) 3D023 BA01 BB01 BD29 BE11 BE24
3D344 AA21 AB01 AC02 AD11
3L211 BA57 DA14